

化学委員会・物理学委員会合同結晶学分科会（第26期・第1回）
化学委員会 IUCr 分科会（第26期・第1回）合同分科会議事要旨

日時：令和6年3月22日（金） 11時00分～11時50分

会場：日本学術会議 5A-（2）会議室 + オンライン（Zoom）

出席者：秋山 修志[†]、井上 豪^{†*}、奥部 真樹^{†*}、奥野 恭史[†]、片岡 幹雄^{†*}、上村 みどり^{†*}、
栗原 和枝^{†*}、黒田 玲子^{†*}、小島 優子[†]、佐々木 園^{†*}、菅原 洋子^{†*}、富永 依里子[†]、
富安 亮子^{†*}、中川 敦史^{†*}、南後 恵理子^{†*}、難波 啓一^{†*}、西野 吉則^{†*}、西原 寛[†]、
西堀 麻衣子[†]、野田 岳志[†]、福島 孝典[†]、森吉 千佳子^{†*}、山下 敦子[†]

欠席者：大友 季哉[†]、腰原 伸也[†]

（[†]結晶学分科会委員、^{*}IUCr 分科会委員）

<配布資料>

資料1：化学委員会物理学委員会合同結晶学分科会第25期年次報告（R3、R4、R5）

資料2：化学委員会IUCr分科会第25期年次報告（R3、R4、R5）

資料3：「COVID-19 パンデミックを契機として考える日本の結晶」公開WEB シンポジウム
開催記録

資料4：「持続可能な発展のための国際基礎科学年（IYBSSD）」関連公開シンポジウム開催記
録

議事

1) 委員紹介、委員長互選、役員の承認

- ・結晶学分科会およびIUCr分科会の設置目的についての確認が行われた後、委員紹介が行われた。

- ・引き続き、役員の選出が行われ、全会一致で両分科会の役員が選出された。（敬称略）

結晶学分科会：委員長 井上 豪、副委員長 山下敦子、幹事 福島孝典、小島優子

IUCr分科会：委員長 中川敦史、副委員長 佐々木 園、幹事 南後恵理子

- ・なお、西堀麻衣子連携会員（現結晶学分科会委員）が、IUCr分科会へ委員として加わるこ
とが、IUCr分科会委員の全会一致で承認され、また、IUCr委員への就任が幹事会で承認
された後、IUCr分科会幹事に加わることが承認された。

2) 議事要旨の提出に関する委員長一任について

- ・「委員会等の議事要旨の公開等に関するガイドライン（平成30年3月30日第261回幹事会決
定）」に基づき、議事要旨を会議開催日から8週以内に日本学術会議HPに掲載することか
ら、議事録要旨（案）について、各委員への回覧を行った後の微修正を含めた最終承認
は、委員長に一任することを全会一致で承認した。

3) 委員会委員間のメールアドレスの共有について

- ・分科会においてメール審議等を行うに際し、構成員間でのメールアドレスの共有が必要と

なることから、委員構成員間でのメールアドレスの共有が諮られ承認された。なお、本日欠席の委員については、事務局から説明の上承諾を得ることになった。

4) 第 25 期分科会の活動報告

- ・第 25 期の分科会活動報告の資料として第 25 期年次報告（資料 1、資料 2）と記録（資料 3、資料 4）が事前配布されており、まず、第 25 期の活動報告がなされた
- ① 菅原結晶学分科会委員（第25期結晶学分科会委員長）より、第25期においては、結晶学分科会の活動として、8回の分科会が開催され、IUCr分科会と連携しつつ、3件の公開シンポジウムの開催と、2件の「記録」作成が行われたこと、また、3つの連絡会議（IYBSSD2022連絡会議、パンデミックと社会に関する連絡会議、カーボンニュートラル連絡会議）に参加し活動を行ったこと、及び、第26期への申し送り事項が報告された。
- ② 井上IUCr分科会委員（第25期IUCr分科会副委員長）より、第25期においては、IUCr分科会の活動として、8回の分科会が開催され、2021年および2023年に開催された国際結晶学連合会議および総会（IUCr2021、IUCr2023）へ各々4名の代議員を送り議決権を行使したこと、IUCr2023において理事の推薦を行い中川敦史委員が理事（任期2023年～2029年）に選出されたことが報告された。また、IUCrの21のCommissionへ委員候補の推薦を行ない、任期2021年～2023年の期間については委員長 1 名、委員18名、コンサルタント 8 名、任期2023年～2026年の期間については委員長 1 名、委員18名、コンサルタント 6 名が選出されたこと、及び、第26期への申し送り事項等が報告された。

5) 第 26 期分科会の活動に関する意見交換

- ・第 26 期分科会の活動方針に関して意見が交換され、下記の通りその方向性が確認された。

① 結晶学分科会

IUCr 分科会と連携しつつ、基礎科学が拓く様々な物質科学等に関するシンポジウム等を通じて若手人材の育成について議論を深めることを今後の活動方針とする。

物質科学や生命科学の礎となる構造科学を支える結晶学を中心とした基礎科学の重要性を高校生や大学生に対していかに広く、早期に伝え、博士人材を育成することができるか、継続的に検討していく必要がある。

② IUCr 分科会

結晶学分科会と連携しつつ、国際結晶学連合（IUCr）等を通じて世界の基礎科学や物質科学に対する日本の貢献について広く伝えるとともに、最先端研究を牽引する世界の研究者との交流によって日本の科学技術のさらなる発展を促進するという活動方針を継続する。

6) その他

- ・次回の結晶学分科会・IUCr分科会合同分科会を 6 月に開催予定の分子研所長招聘会議にあわせて行うことが承認された。